

《報告》

実務者のための栄養管理プロセス研修会（NST 合宿）報告

島山 桂吾¹⁾ 立花 詠子²⁾ 塚原 丘美²⁾

1. 研修会の目的

名古屋学芸大学管理栄養学部は2002年の開学以来、2,000名以上の卒業生を輩出し、医療機関へ就職した卒業生が多数存在している。その多くは様々な学会や研修会に参加して研鑽している。しかしながら、実務者が研修会に参加しても、その後に繋がる実践的なプログラムは少ない。そこで、患者の栄養管理計画を作り、どのようなアウトカムを期待してPDCAを回していくのかを深く検討するため、合宿形式で時間をかけて症例検討を行った。この経験を通して実務者としてのスキルアップを図ることを目的とした。さらに、様々な立場の管理栄養士と議論する中で、同職種間でのネットワーク構築に繋がることにも期待した。

2. 日時および場所

日時：平成31年2月2日（土）～3日（日）
会場：サンプラザ・シーズンズ 葵の間
（名古屋市名東区藤里町1601番地）

3. 参加者

本研修会は名古屋学芸大学および名古屋学芸大学大学院の卒業生を中心として医療機関で数年間の実務を行っている管理栄養士を募集したところ、18名（女性9名、男性9名）の応募があった。経験年数は2年以下が11名、3～5年が1名、10年以上が6名であった。他の研修会への参加経験は「あり」が12名、「なし」が6名

であった。経験年数が近くなるように4グループに分けた。

4. 研修会の概要

〈1日目〉

13：15～16：15	セッションⅠ 糖尿病・妊娠糖尿病
16：30～19：00	セッションⅡ 高齢者の栄養管理
19：00～20：30	夕食・交流会
21：00～	情報交換会

〈2日目〉

8：30～11：30	セッションⅢ 経口・経腸・静脈栄養のプランニング
11：30～12：30	反省会・アンケート

5. 講師および研修会内容

〈講師〉

下方浩史 教授（名古屋学芸大学 健康・栄養研究所）
森 茂雄 氏（稲沢厚生病院 栄養科）
福元聡史 氏（トヨタ記念病院 栄養科）

〈研修会内容〉

1) 13：15～16：15 セッションⅠ 糖尿病・妊娠糖尿病

担当：福元聡史 先生

内容：基本的な知識についての講義の後、実症例を検討した。クイズ等を交えながら、グループディスカッションを行った(写真1)。糖尿病と妊娠糖尿病の病態の違いを理解することが重

1) 名古屋第二赤十字病院栄養課

2) 名古屋学芸大学管理栄養学部



写真1 セッションⅠ 糖尿病・妊娠糖尿病



写真2 セッションⅡ 高齢者の栄養管理

要であり、偏った食事制限をさせないように栄養食事指導を実践することが大切であると指導があった。

2) 16:30~19:00 セッションⅡ 高齢者の栄養管理

担当：下方浩史 先生

内容：高齢者の栄養管理について講義があった。これまでに実施されてきた食事療法についても、別の新たなエビデンスがあることについて説明があった。症例検討ではグループごとに症例の栄養管理方法について討議・発表し、それぞれの病態に応じた対応について解説され、臨床管理に必要な知識について説明があった（写真2）。

3) 8:30~11:30 セッションⅢ 経口・経腸・静脈栄養のプランニング

担当：森 茂雄 先生

内容：急性期から在宅における経口・経腸・静脈栄養のプランニングの講義、およびグループディスカッションを実施した(写真3)。電解質まで考慮し、静脈栄養・経管栄養を用いて総合的に提案していくことについて解説された。



写真3 セッションⅢ 経口・経腸・静脈栄養のプランニング

表1 アンケート項目

設問1	特性について（性別、勤務年数、他の研修会への参加経験）
設問2	合宿前に考えていた目標は何か
設問3	研修前後での理解度はどのように変化したか（3分類）
設問4	最初の目標は達成できたか
設問5	初めての合宿に対しての感想や意見
設問6	あまり理解できていない人は、時間的にどのくらいの講義や演習で理解できるか
設問7	もっと効率よくわかり易い研修会のやり方（希望）
自由記述（意見や感想を自由に）	

表2 研修会前に考えていた目標は何か

<ul style="list-style-type: none"> 自分のスキルアップ5名 横のつながり・交流3名 足りないところ・課題を見つける 3名 他病院（急性期などに関わらず）の栄養管理の目標・内容等を聞く 自分が栄養士として働くにおいて、どのような方向性でいけばよいか見つけたかった 他施設で働く方の考え方やプランの立て方など、自分やいつもの職場では出ないような知識を吸収できたら良い 今の業務形態に閉塞感や見通しのたたないもやもやしたものがあり、何か刺激を得られればと思って参加した 仕事に入ってから関わりのうすかった分野の知識の確認、吸収 職場で学んできたことを含め、今の自分の立ち位置を知る
--

6. 研修会の効果

研修会終了後にアンケートを行った。アンケート項目を表1に示す。問2の参加の目標については参加者のほとんどが、本研修会の目的と合致していた（表2）。問3の理解度の変化は、セッションⅠでは 3.0 ± 1.0 から 3.9 ± 0.4 、

セッションⅡでは 2.9 ± 1.0 から 3.8 ± 0.7 およびセッションⅢでは 2.9 ± 0.9 から 3.9 ± 0.3 と、いずれも有意に上昇していた（それぞれ $p=0.001$ 、 $p=0.000$ および $p=0.002$ 、vs 研修前、Wilcoxon の符号付順位和検定）（図1、2 および 3）。最初の目標の達成度については参加者のほとんどが少し達成または達成できたと感じていた（図4）。

合宿に対しての感想や意見は、参加者の中にも初めは懐疑的であったものの、参加してみた後には合宿形式に満足感があつた（表3）。また理解できなかった人ではもう少し時間が必要、

定期的に勉強したい、反復練習が必要という意見があつたが、実務で取り組む必要性を感じていた（表4）。しかし、演習の時間や内容についての改善点についての意見はあまりみられなかったことから、今回の研修方法は適切であつたと考えられる（表5）。自由記述に関しては、良い点、改善した方が良い点など、率直な意見を述べてもらった（表6、表7）。概ね好評な意見であり、再度の参加を希望する参加者もみられ、今後も同様の研修会開催の必要性があると考えられる。

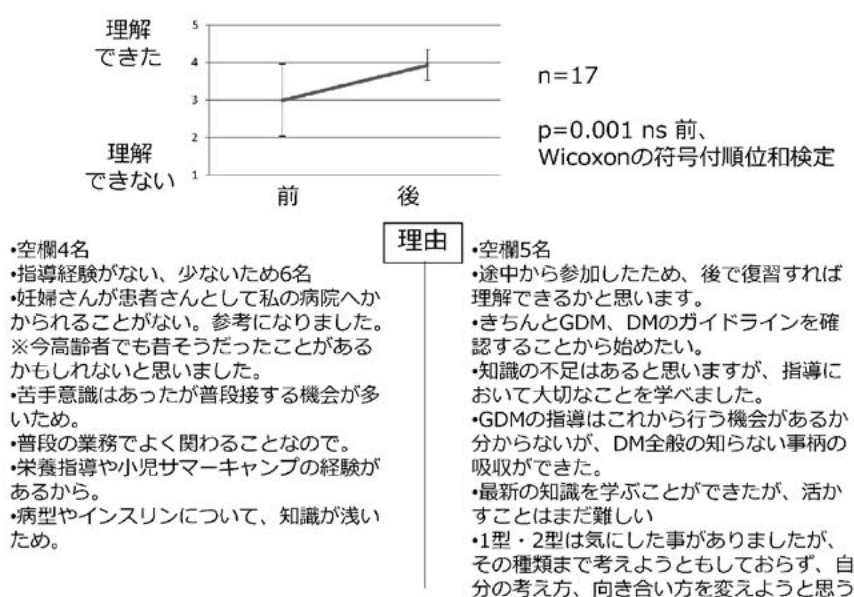


図1 セッションⅠ 研修前後で理解度はどのように変化したか

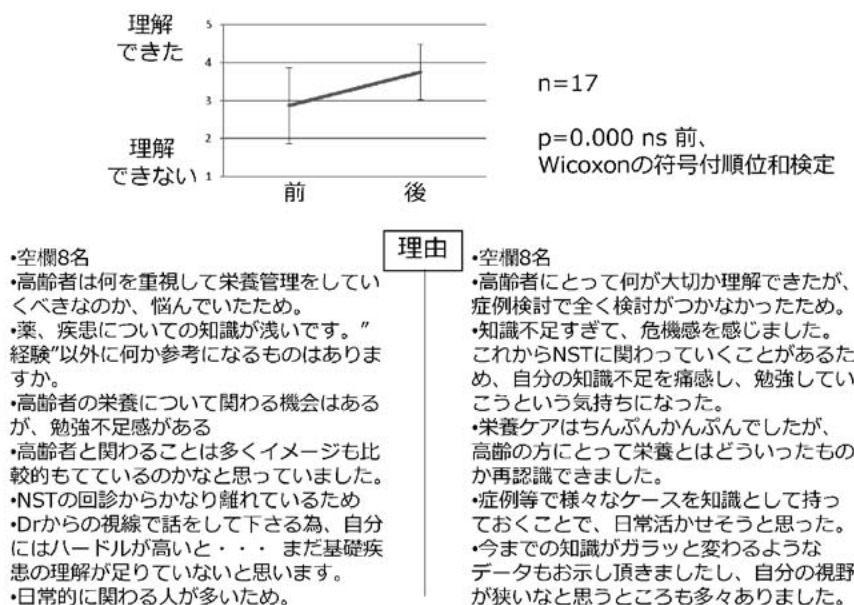
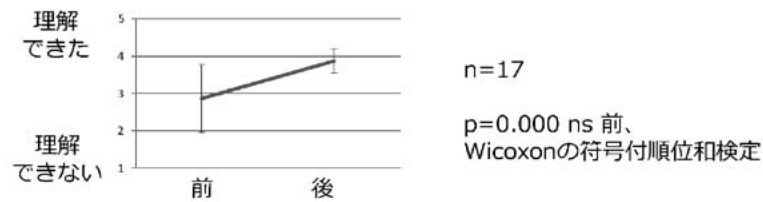


図2 セッションⅡ 研修前後で理解度はどのように変化したか



- 理由
- 空欄6名
 - 経験、知識が乏しい4名
 - 在宅まで考えると、いろいろなことを考慮する必要があり、自分は今の時点で理解度、知識が足りないため。
 - Na,Cl等電解質について、ちゃんと考える機会を見過ごしていた。
 - 栄養管理に苦手意識があった。
 - 自分の知識不足はふしふしと感じていますが、業務上でもいまのところ活用できるのか・・・と思っています。
 - 栄養量、ルートの提案についての業務をほとんどしていない。
 - 特に電解質まで考える点が弱いと思っていました。

- 空欄4名
- 電解質や循環（病態）、在宅など自分の視点を変えることが大切とわかったため。
- ポイントがよくわかった。明日からの仕事に生かせる内容が多かった。
- これから勉強していかないといけない方向性がみえ、道がひらけた感じがした。
- 患者イメージが抱けなかったのも、もっと病棟へ行かなければなあと思いました。
- 今まで難解でさせていた分野のテクニックがとてもありがたかった。
- 日頃業務で患者さんにかかわっている部分（注意しているところ）がほんの一部であることを痛感しました。

図3 セッションⅢ 研修前後で理解度はどのように変化したか

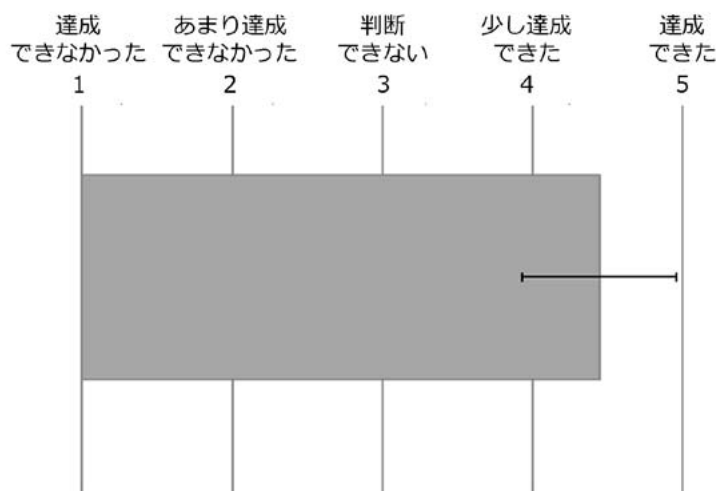


図4 最初の目標は達成できたか

表3 初めての合宿に対しての感想や意見

- 空欄1名 良かった5名 勉強になった5名
- 参加する前は合宿でなくても良いと思っていましたが、結束力というか絆ができたような気がして良かったです。
- 宿泊までしてという思いがありましたが、実際に参加してみて参加して良かったと思います。
- 同世代でのグループ分けも良かった。血液データの見方を教えてほしい。
- 事前に勉強すること、今回であれば mEq などが欲しいです。当日いろいろな症例に触れたいからです。
- 自分を見つめ直す場となる。
- 飲み会でも若い子たちと交流できた事で自分の中の考えも整理できた。(電車時間を気にせずできたのが良い)
- 1日目より2日目のほうが仲間うち解けて意見が出しやすくなった気がします。
- 経験年数毎のグループ分けのおかげで、比較的自由的な発想ができた。(セッション毎にグループ mix しても良いかとは思いますが)。
- 夕食と交流会が一緒でもよいかと思った。
- 2日間丸々時間をとるには、周りの方の理解も必要でしたので1日も嬉しいです。
- 座学だけでなくディスカッションや発表、宴会等様々な形で学習や情報交換ができ、時間を感じさせない充実した研修でした。

表4 あまり理解できていない人は、時間的にどのくらいの講義や演習で理解できるか

- 空欄8名 ちょうど良かった3名
- 話をたくさんきくより、ふだんに取り入れさえすればすぐ身につくのかなと思います。
- 理解、知識として自分に残すためには帰ってからが重要と思います。
- 自分で勉強をするしかない気がしますが、どのくらいは決められないです。「日々」だと思います。
- 90分
- 回数を重ねていけば理解が進むと思う。
- グループワークやディスカッションを年に4回くらいは行っていきたい。行うことができれば何とか…
- 予習も必要かと思います。
- 半日では難しいと思います。最低でも1日は必要かと思います。

表5 もっと効率よくわかり易い研修会のやり方（希望）はあるか

- 空欄2名 今回の形式で良かった5名
- 講師の先生が3人とも非常に良かったので満足
- より多くの症例に触れたいです。事前課題があればやりたいです。病院の中で実際に目で見てというのは迷惑になってしまいそうですが、実際に活かすためにイメージしやすいとよいと思います
- 同じ経験年数くらいの人たち同士のグループ分け、話の方向性やまとまりやすさも考えると良かった
- あらかじめ講義の題材が分かっていると予習ができた(?) (予習しない方が良いかもしれませんが)
- 講義の中でももう少し基礎のボリュームを増やして頂けるとうれしい
- パワーポイントも非常に勉強になりますが、実際に業務で使用する物品で実演して頂けるとイメージしやすいです。
- 1セッションの時間が長く、集中力が切れそうになりました…

表6 自由記述（意見や感想）1/2

- 感謝の言葉 6名
- 今後も研修会を要望 2名
- 有意義な研修会 3名
- 復習の必要性 2名
- 自分の苦手を知ることができた 2名
- 違う職場の先輩方から、働き方の姿勢や日頃の悩みを聞いて頂けて、働き方を見直すことも学ぶことができました。自分の知識が足りず、勉強の必要性を改めて痛感しました。
- とても楽しくあつという間でした。また恥をしのんで、参加したいと思いました。
- 楽しく学べ、いまの自分のスキルなどの悩みが少し解消された感じがあります。これからよりスキルアップをし、患者様によりそった栄養管理を目指していきたいです。
- 1年目だから知識不足が本当に際立ちましたが、「わからない」と言える環境だったので質問もしやすく、とても勉強になりました。グループ分けも良い分け方と思いました。
- 施設やポジションにより経験できることには差が生じてしまうので、この研修会で学べた事はキャリアに関係なく大切で良いものだったと思う。回数も重ねてグループワークの精度も良くなりそう。また参加したいと思いました。

表7 自由記述（意見や感想）2/2

- 当日までセッションの内容がわからなかったのも、どのような内容を学ぶのか、できるのか不安な部分もありましたが、経験年数が同じくらいの人たちが集まったグループなので話しがしやすかったです。病棟担当制の栄養管理では、自分の担当診療科の勉強はするけど、他がおろそかになってなっていることが改めてわかった。(DM、GDM) 急性期～在宅、それぞれの分で「今何をするか」自分で考えてプランを立てることが重要であると思った。チーム医療と言いつつ、頼りすぎていた部分もあったので、自分で自信を持って提案ができるように今後も日々勉強していきたいです。
- 先生方の講義を聞く機会があって嬉しく思いました。自分にはなかった視点や知識に触れて刺激を受けました。
- 他の勉強会等では無いような雰囲気の下、学ぶことができ、とても居心地の良く刺激になった勉強会でした。今はできること、分かることの範囲がすごく狭く、まだまだ学ぶことの多い、学びきれぬ不安な職種であることを痛感しました。またそれを感じているのは自分だけではないという、ともにそれに向き合っていける仲間が先輩が、先生方がいるということを実感しホッとしています。この先もこのような勉強会には積極的に参加していきたいです。1年目からこういった研修に参加させて頂けて幸せです。病院栄養士として栄養のプロとして活躍できるよう頑張ります。
- 日常業務に生きるだけでなくモチベーション向上にもつながりました。
- とても勉強になり、仲間づくりができる勉強会が、格安で参加させて頂いただけ、とても良い経験になりました。また1年目チームとベテランチームを分ける試みも良かったと思います。

7. 研修会の感想および改善点

以上のアンケートの結果から、研修前後を比較すると理解度の深まった参加者がほとんどであった。「きちんと GDM、DM のガイドラインを確認することから始めたい」「高齢の方にとって栄養とはどういったものか再認識できた」「ポイントがよくわかった。明日からの仕事に活かせる内容が多かった」「これから勉強していかないといけない方向性がみえ、道がひらけた感じがした」など、目標を見つけられたいという意見が多かった。また、同じ経験年数同士の組み合わせであっても、他のグループの意見を聞く機会を取り入れる方法をとったことで、多くの意見を聞くことができ満足度が上がったと考えられる。この研修会の成果として「話をたくさん聞くより、ふだんに取り入れさえすればすぐ身につくのかなと思う」「理解、知識として自分に残すためには帰ってからが重要」という意見もあり、今後の活躍が期待できた。

初めての合宿形式で研修会を行ったが、満足度が高く今後も同様の研修会を望む声が多かった。この研修会の最終的な目標の一つに、学会発表や研究論文の作成ができるようになることもある。これからも、実践的な症例検討について学習すると同時に、研究活動を始める第一歩の手助けになるように、本研修会の開催を続けていきたいと考えている。

8. 謝辞

この研修会を開催するにあたり、名古屋学芸大学健康・栄養研究所の研究費を利用させていただきました。また、本研修会の講師として下方浩史所長に高齢者のセッションを担当していただき、長時間にわたる講義をしていただきました。さらに、オブザーバーとしてすべてのセッションにも参加していただきました。心より深く御礼申し上げます。